

索引に関する説明として、正しいものはどれですか

- 複数の列の組合せに対して作成できる
- 主キー制約または一意キー制約が定義された列には自動的に索引が作成される
- 表と異なる表領域に作成できる

停電のためインスタンスが突然停止してしまいました。この後のインスタンス・リカバリに関する説明

- 1. REDOログ・ファイルの更新履歴をデータファイルに適用します(ロールフォワード)。この時、UNDOセグメントのUNDOデータも復元されます。
- 2. ロールフォワード後のデータファイルにはまだコミットされていないデータも含まれているため、UNDOデータを使用してコミットしていないデータをロールバックします。
- 3. データファイルとREDOログ・ファイルの同期が取れた状態となります。

表レベルの制約で外部キー制約を定義する

```
CONSTRAINT cust_fk FOREIGN KEY(customer_id) REFERENCES customers(customer_id)
```

CKPTに関する説明として、正しいものはどれ?

- データベース・バッファ・キャッシュ上で変更されたデータが格納されているバッファを「使用済みバッファ」と呼び、使用済みバッファをデータファイルへ書き込む処理を「チェックポイント」と呼びます。
- CKPT(チェックポイント)プロセスはOracleインスタンスを構成するバックグラウンド・プロセスの1つで、チェックポイント・イベント発生時に、使用済みバッファをデータファイルへ書き込むようDBWnへ指示を出します。
- 同時にチェックポイント・イベントが発生したことを制御ファイルとデータファイルへ書き込みます。

TCP/IPでリスニングするリスナーを新規で作成します。「listener.ora」ファイルに必須の項目

- リスナー名
- プロトコル
- ホスト名
- ポート番号

```
LISTENER =  
  (DESCRIPTION =  
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = localhost.localdomain)(PORT = 1521))  
  )
```

Oracle Data Guardの説明

- プライマリ・データベースの障害発生時にフェイルオーバーでスタンバイ・データベースに切り替える

- プライマリ・データベースのREDOデータをスタンバイ・データベースに適用してデータをコピーする

CREATE TABLE ～ AS SELECT文で、既存の表の定義とデータを新しい表にコピー

- 制約はNOT NULL制約(NULL値を禁止する制約)のみコピーされ、その他の制約や索引(データの間合せのパフォーマンスを向上させるオブジェクト)はコピーされません。

```
CREATE TABLE 表名 [(列名 [DEFAULT デフォルト値] [, 列名...])]
AS SELECT文;
```

既存のデータベース・ユーザーのパスワードの有効期限を無制限にする

- データベース作成時に作成されたデータベース・ユーザーにはDEFAULTプロファイルが割当てられていますので、既存のデータベース・ユーザーのパスワードの有効期限を変更するには、DEFAULTプロファイルの設定を変更します。

Enterprise Manager Database Expressの説明

- OUIでOracleソフトウェアをインストールすると自動的にインストールされる
- DBCAでデータベースを作成する時に構成できる

Linux環境において、インスタンスを起動する際に使用するツール

- SQL*Plus (STARTUP)
- Enterprise Manager Cloud Control

データベース・バッファ・キャッシュに関する説明

- データファイルから読み込んだデータ・ブロックのコピーがキャッシュされる
- UPDATE文でデータの更新時はデータベース・バッファ・キャッシュの内容が更新される

シード、非シード

- 非シード・テンプレートには物理データファイルは含まれないため、データベースのブロック・サイズの変更など、詳細な設定でのデータベース作成が可能です。カスタム・データベース